

夏の講演会・講習会

集合型及びアーカイブ配信にて開催！

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏の講演会・講習会をオンライン開催で実施しました。今年度も、夏の講演会・講習会の開催方法についてを検討を重ねた結果、1日目は各校及びオンラインにて実施、2日目は大阪府社会福祉会館及び後日アーカイブ配信にて開催することができました。さまざまな方のご協力によって、実施することができました。本当にありがとうございました。

今回参加してくださった方の感想から一部を紹介し、夏の講演会・講習会を振り返ります。

1日目 夏の講習会（8月8日）

今回、初めての試みとして、基礎講座と応用講座の2つの講座に分けて実施し、参加者にはどちらかを選択して受講していただきました。基礎講座は5つ、応用講座は3つの講座を設定しました。また、応用講座では、討議及び意見交換を行いました。

参加者の感想

基礎講座「人工内耳」

- 人工内耳の充電がどのくらい持つかなど分かりました。

基礎講座「補聴援助システム」

- ロジャーとパスアラウンドマイクの使用法や注意点をとても分かりやすく知ることができました。勤務校で使用しています。今後の教育活動の中で意識して活用していきたいです。

応用講座「音響学の基礎 — 入門編 —」

- 音響学の基礎では、音の性質や音声の特徴についてわかりやすかったです。

応用講座 — 討議・意見交換 —



今年度の応用講座では、参加者同士で交流し合いながら理解を深める時間をもちました。まず、応用講座「難聴児の聞こえにくさについて考える」の担当者より「地域の学校」や「聾学校・聴覚支援学校」の授業場面での聞こえにくさの事例を提示し、各校のグループにて情報交換や討議を行いました。その後、討議した内容をZoomにて報告及び共有し、意見交換を行いました。

- 各校で討議した内容を全体で共有もできてよかったです。
- 校内の話し合い、他校のことを聞くことは貴重でした。

感想の他にも、数多くのご意見、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

2日目 夏の講演会・講習会（8月9日）

午前 講演会

テーマ 「聴覚障害児の言語、思考、感性の発達と指導について」

講師 筑波技術大学 教授 長南 浩人 先生

参加者の感想

- 学力を伸ばすためには、日本語力を育て高めなければというのは、本校でも話し合い、考え合っているのですが、今回はそこに感性を育てることの大事さの話を聞かせてもらい、さらに考える視点の材料ができて、ありがたかったです。
- 「感性を育てる視点」は、あまり持っていませんでした。言語は思考ツールと言われていますが、言語の概念形成を、経験を通し習得し認知に繋げていく。概念形成の視点とことばの種を蒔くとい視点で、相互に良き作用させることが大切だと思いました。
- 「感性は感性で育成する」とても心に響くことばでした。聴覚障害教育に「感性」の視点を取り上げられたことに、大変刺激を受けました。幼児期からつい教員が教えやすい「語彙」を増やすことや、「視覚支援＝絵カード」を使うことや、読み書きを多くすることといった目に見える表面的な指導に陥りがちだということを、我々は大いに自覚しなければならないと改めて思いました。
- わかりやすさを優先させるのではなく、「言葉の種まきをする」というお話に、難聴児が、語彙力が少ないのは、そうさせていたのかもしれないと気づかされた。また「知覚したことを、言葉を使って認知させる」ということも2学期から実践していこうと思いました。
- 生徒が授業でつまずく理由が具体的にわかり、勉強になりました。言語→思考→感性の関係性、相互作用について詳しく知ることができました。子どもの関りの中で気を付けていきたいと思います。
- 感性を育てる働きかけ、自分の感性も磨くことも大切にしながら意識していきたいと思ます。
- 過去に担任した子どもたちや、現在担当している通級指導教室の子どもたちのことを思い浮かべながら聞きました。どの子も語彙の少なさや思考の広がりにくさを感じながら歯がゆい思いをした経験があります。「知覚を認知に変えていく」指導が足りていなかった自分を反省しました。豊かな言語で豊かな心が育つよう考えていきたいです。
- 難聴児の言語、思考、完成の発達に関する長南先生の的確な分析が非常に興味深かったです。「知覚と認識」「情動的共感と認知的共感」というアプローチにより、難聴児が生きる上で、単に聞き取りにくだけではなく、どのような困難が生じやすいのか、よくわかりました。そこを理解したうえでの指導は、発達障害児を含むすべての子どもの指導にも役立つように感じました。

- 逆マタイ効果のお話がありましたが、その通りだなと思いました。子どもたちが理解しやすいようにと考えるあまり、簡単な言葉を使いすぎて、支援しすぎていることもあるので、わからないだろうと思うことも自分の頭で考えて思考させながら答えを導きだすことがとても大切なことだと思いました。
- 聴覚障がいの子どもの9歳の壁を超えていく力や感性を育てていくためには語彙力だけではなく、偶発的な「経験」を言葉に変えていくことの大切さをとても感じました。

午後 講習会

テーマ 「人工内耳センターの ST がしている事 —教育と医療のつながり— 」

- 聴取能への影響や常時装用を狙う、ベント加工の話
近藤 香菜子 先生（京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
- 装用後の表出音声を採取して音響分析し、発達を考察する話
塩見 千夏 先生（京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
- 両耳人工内耳の長期経過の話：語音弁別と騒音下聴取
森 尚彫 先生（京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
（関西福祉科学大学保健医療学部 リハビリテーション学科 准教授）
- 医療的な予測と現実、養育者の思いを合わせてしていることの話
山口 忍 先生／井口 奈美江 先生（京都大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

参加者の感想

- 塩見先生の講演の中で「ことばの発達のためには音声インプットだけでなく、手話も活用した内言語の育ちも大切」というお話があり、共感しました。自分自身が関わってきた人工内耳の子どもの言語力は、本当に千差万別の実感があります。養育者がいろいろな情報の中で迷ったり混乱したりしないように、医療と教育、福祉の連携がより緊密になればよいなと思います。
- 人工内耳については知りたい内容だったので、今回の講習会でお話を聴くことができありがたかったです。10年前には高等部には人工内耳の生徒はほとんどいませんでしたが、今は約半数以上が人工内耳で一側装用です。今後は両側装用の生徒も高等部に上がってくることもわかりました。二側目の手術をした年齢や一側目と二側目の手術の間隔と装用効果の関連については、今後参考にしたいと思います。
- STの先生はマッピングを行なっているという認識しかなかったので、今回ベント加工や音響分析など種々なアプローチでリハビリを行なっていると分かりました。もっと言語聴覚士の方に相談したり、連携したりする場があればと感じました。
- 耳鼻咽喉科でのマッピングやリハビリにおいて取り組んでいる内容を詳しく知ることができて良かったです。連携と協同（専門家）の大切さを改めて感じることができました。教育現場からの情報提供、情報発信を心がけたいと思いました。
- 子どもたちの音や言葉の獲得のために、医学や科学などの見地からで様々な分析がされ、サポートされていることが分かりました。分析された結果を療育者に伝えることで、未来に向けての希望を持たせる精神的なサポートになっていることもわかりました。こうした関わりかたは教育でも大切なことだと思います。医療、保護者、教育などとの連携をこれからも大切にしていこうと思います。

- 京大病院の耳鼻科が学校を含めて、ケース会議を開かれているという報告に感動しました。医療と教育の連携ができていて、壁が低いことに感動しました。大事ですね。
- STの先生から人工内耳装用後の課題を分析され、するどい考察なども聞くことができ勉強になりました。医療と教育がどのように連携していくか、今後もできるところから積み重ねていきたいです。
- 児童・生徒が通院してどんなことをしていただいているのか知ることができてよい機会になりました。
- 人工内耳のマッピング方法、子どもの表出音声の発達とその分析、両耳人工内耳についてなど、人工内耳を装着するうえでの、また装着するかどうか決定するうえでの専門的なお話を伺うことができ、人工内耳をした子どもの聞こえについて、理解が深まりました。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、医療機関に出向くことが激減し、実際に医療の現場で働いていらっしゃるSTの先生のお話を聞く機会が限られていたので非常にありがたかったです。
- 4人ものSTの先生がそれぞれ異なった方向からのお話をしてくださる貴重な機会でした。小児の難聴に関わるSTさんは地方であればあるほど存在せず、医療との連携ということばが言われて久しいにも関わらず、日常的に頼ることや、ケース会議をこまめにということが難しい状況です。在職校とはご縁がないとはいえ、先生のお話をお聞きして、連携の大切さをあらためて感じました。聾学校もSTさんも人事異動、人材育成の課題を抱えていますが、現場の努力だけではどうにもならないことに国が早急に取り組んでもらいたいとも強く思いました。
- 人工内耳装用児の構音獲得について、音響分析の経過を確認することで獲得途中であることを確認できる点と養育者への不安解消にもつながる点、とても参考になりました。

今後の予定

9月下旬 秋の講演会案内発送、機関紙79号発行
10月29日(土)～11月6日(日) 秋の講演会(オンデマンド配信)

講師 松崎 丈 先生(宮城教育大学 教育学部教授)
テーマ 『合理的配慮をテーマにした教育実践—当事者研究の実践から—』

12月上旬 冬の学習会案内発送、機関紙80号発行
(令和5年)
1月27日(金) 第3回代表委員会(Zoom)
1月28日(土)～2月5日(日) 冬の学習会(オンデマンド配信)

講師 内藤 泰 先生(神戸市立医療センター中央市民病院
耳鼻咽喉科参事・総合聴覚センター長)
テーマ 『こどもの難聴と人工内耳—総合聴覚センターの取り組み—』

3月下旬 集録第23号発行、機関紙81号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒540-0005

大阪府大阪市中央区上町1丁目19番31号
大阪府立中央聴覚支援学校内

TEL: 06-6761-1419

FAX: 06-6762-1800

メール: kinkieaa@gmail.com